

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「心理的安全性」をキーワードに、「安心して相談できる関係性」や「積極的な挑戦を後押しする環境」を構築し、「やってみよう!」「できた!」を増やす、多様性を認めて相互に支え合うことができる前向きな学校をめざして、次の取組みを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

キャッチフレーズ:「めざす子ども像の実現に向け、根拠に基づくユーモアのあるユニークな取組みに挑戦!」

- (1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する
ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
イ 自立活動を推進する
ウ 効果的な指導方法を検討する
エ シラバス活用を促進する
- (2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる
ア コース制での学習の充実を図る
イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る
- (3) 時代にマッチした教育理論を構築する
ア 効果的な指導支援体制を研究・推進する
イ カリキュラム・マネジメントを充実させる
ウ ICTを活用した取組みを推進する
エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
オ 人権感覚を育む
カ いじめの未然防止に努める
キ 防災・防犯に努める
- (4) 次世代教員を育成する
ア 人権感覚を高める
イ 他学部との取組みを知る機会を作る
ウ アレルギー対応の強化を図る

2 保護者・地域・関係機関との連携

キャッチフレーズ:「認め合い ともに子どもを 育てよう!」

- (1) 保護者との連携を深める
ア 保護者が進路情報を取得する機会を充実させる。
イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る
ウ 自主単独通学により社会性を育む
- (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する
ア 学校間交流を実施する
イ ボランティア募集活動の推進する
- (3) わかりやすい最新の情報発信を行う
ア デジタル化を推進する
イ 興味がわく情報発信を行う

3 働き方改革

キャッチフレーズ:「何を言っても大丈夫 困ったときはお互い様 みんなが安心 良い職場!」

- (1) 同僚性の高い職場づくりを行う
ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う
- (2) 教職員が働きやすい環境整備
ア 教材バンクの活用を促進する
イ グラウンドを使いやすくする
ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する
エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す
オ 写真撮影・販売等の業務を削減する
カ ダイアルインを導入し、活用を進める
キ ICTを活用して業務の効率化を図る
ク 会議の円滑化・充実を図る
- (3) 業務推進体制を整理する
ア 校務分掌体制を整理する
イ 情報共有体制の強化を図る
ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る

4 地域支援

キャッチフレーズ:「未来をつなぐ次世代のLS育成 ～ 学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に! ～」

- (1) 地域との連携強化を図る
ア 校内の支援コーディネーターの育成を図る
イ 校外の支援コーディネーターの育成を図る

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【教職員】回答率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価の全体平均：90.9% 前年度比+9.4% と、学校運営や教育活動について、教職員の評価は全体として大きく向上した。 <p>〈特に評価が高い項目〉</p> <p>カウンセリングマインドを生かした生活指導（肯定的評価：95.7%） 人権尊重に基づいた支援・指導（肯定的評価：96.3%） 発達段階や実態に応じた進路指導（肯定的評価：95.7%） これらの項目はいずれも 95%前後の肯定的評価となっており教職員の中で、「共感的姿勢をもった生活指導」、「人権尊重」、「発達段階や実態に応じた進路指導」という支援学校として大切にしている部分が高評価であった。「子ども一人ひとりを大切にする姿勢」が、教職員間で共通認識として定着「人権尊重」については、保護者の評価も 89.7%と高く、教職員、保護者共通して高く評価されている。</p> <p>〈伸びが顕著な項目（前年度比）〉</p> <p>教育活動の評価を次年度に生かしている（87.0%）（前年度比：+17.7%） いじめ対応体制（89.4%）（前年度比：+12.5%） 保護者・地域への情報発信（87.0%）（前年度比：+13.6%） 前年度より 10%以上改善した。 学校全体として教育活動の振り返り→改善→次年度への反映ができており、いじめ対応体制の強化、情報発信についても改善が進んでいることがうかがえる。</p> <p>【保護者】回答率（前年度比）小学部 82.0% (+16 ポイント) 中学部 75.8% (-2 ポイント) 高等部 49.6% (+2 ポイント) 合計 70.1% (+7 ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価の全体平均：83.2%（前年度比+5.8 ポイント）多くの項目で 8 割を超える評価となり、全体として保護者の学校評価は総じて高い結果となった。 <p>〈特に評価が高い項目〉</p> <p>学校は、教育情報について、提供の努力をしている（89.0%） 授業参観や学校行事で学校の様子を知ることができる（94.7%） 教職員は日常の教育活動で子どもの人権を十分に尊重している（89.7%） 学校の児童生徒指導の方針に共感できる（91.3%） 授業参観・行事、配布物、発信（通信、HP 等）を通して、学校での様子が保護者に伝わっていることが読み取れる。また、学校の指導方針に共感をしていただき、「子どもを一人ひとり大切にしている姿勢」が保護者に実感として伝わっていると考えられる。</p> <p>〈前年度から大きく改善した項目〉</p> <p>進路・将来に関する指導：78.3%（+14.8 ポイント） いじめに対する学校の対応：62.0%（+8.6 ポイント） 昨年度より項目の文言を変更しており、前年度からの単純な比較はできないが、どちらも前年度より大きく改善がみられる。教職員の回答結果では、「進路指導（95.7%）」「いじめ対応（89.4%）」の項目とも、高い肯定的評価となっている。「わからない」の回答も減少しており、学校の取組が保護者に伝わりはじめていると考えられる。今後も継続的な周知や、周知の工夫を行っていく。</p> <p>〈課題の見られる項目〉</p> <p>授業の分かりやすさ・楽しさ：69.6%（-3.4 ポイント） 肯定率は約 7 割で、一定の評価は得られているが、前年より低下している。「わからない」が 2 割を超えており、保護者が授業の実際を判断しにくい状況が続いている。子ども自身が授業についてどう感じているかを表現することが難しいことも考えられる。</p>	<p>【第 1 回 令和7年7月2日（木）開催】 採択教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の習熟度すべてに網羅する難しさはある。しかし、視覚支援や教材の作成など教員の工夫によって理解や想像を促せると感じた。 地域の小学校でも障がいのある児童の多様性が見られ、同様に保護者のニーズも多様化しており、専門性の観点から対応に苦慮している。教科書の系統性を伴った活用についても地域の小学校も支援学校も大変だと感じた。 <p>令和7年度 学校経営計画および学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズがあり、更なる専門性が必要になっている。次年度以降、学級編成の設置が変わることや、通級指導教室へのニーズも高くなっていることもあり、地域の小学校が自立していくためにサポートをお願いしたい。連携をして、子どもたちの将来に繋げていきたい。 この 10 年で、通級指導は 2.3 倍、支援学級は 2.2 倍に増加している。地域支援も一層強化してもらいたい。 いじめは、ちょっとした勘違いや良かれと思ったところでトラブルにもなりうるので、小さなことも把握することが、いじめの件数増加につながる。学校運営協議会において進捗を伺いたい。 学校経営計画が分かりやすい、平易なものになっている。数値目標、取り組み内容も明確である。今後の進捗状況をまたお願いしたい。一方で、学校現場では数値目標や内容項目をすぐに達成できるものではないため、今年度の本校の児童生徒数、教員数等の現状、学校基本調査のデータも示してもらえると、規模と取り組み内容の総合的な内容が分かりやすい。次回示してほしい。 働き方改革、定時退庁の取り組みは今年度も継続すべき。 高等学校への支援、連携について、高等部ならではの地域支援、高等学校との連携があればさらに良い。 新たな礎のもと、発展していくことを期待している。 <p>【第 2 回 令和7年11月12日（水）開催】 特別支援学校知的障がい者著作教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員が多忙な中でも授業準備に時間を注いでいるのがよくわかった。解説書の値段はかなり高い。特に新しい先生に一人 1 冊ずつあれば良い。 一般的に知識として知っておけばいろいろな人のコミュニケーションが取りやすい内容学べていると感じた。色々な機会を与えるというところで学ぶ場がある。それぞれのレベルに合わせて学べる内容を分けている。とても素晴らしいと思った。 個別最適な指導の課題は、子どもたちの課題の幅が大きければ大きいほど、苦勞すると思う。教材バンクも大事な視点だが、システム化だけではその実現は難しい。人と人との交流をいかに作り、共有していくかということが結局、重要である。 支援学校の良いところは、一つの授業を複数の先生がチームで行うということである。若い先生方は悩まれていると思うので、中堅・ベテランの方と一緒に組むことで、何か学びになって子どもたちに還元できるようにしていただきたい。 <p>校内見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの実態に対して、できることをまずは見つけてあげるところを大事にしていると思う。いろいろな興味をもつ、挑戦することで世界が広がっていくところがありがたい。中学部段階からルールを守るなど社会に出るための訓練みたいなものをスタートしていただいているところに感動した。高等部の校内実習は集中力がある。事業所では 1 時間位で休憩を入れたりするが、今から集中する練習をしているところに、これから社会に出る子どもたちにとってすごくよい学びだと思う。 生活体験や図工の時間での手先の巧緻性を育む機会が減ってきている。そういう意味でも粘土等の取り組みはとても大事だと感じた。 外部の人に見せるための特別な授業ではなく、日ごろの授業を見学できて良かった。学校経営計画に「必要な働く力」とあり疑問であったが、見学して大変良くわかった。社会に出るための学びを、小学部からもそうだが、高等部でしっかりと指導している。生徒たちを見て本当に安心というか、信頼感を持った。 高等部は学発の練習、校内実習の時期ということで、特別のカリキュラムで動いている。中学部は休み時間の様子、生徒から話かけてくれたのも良かった。小学部は集会をしていたが、体育館での様子では、全校児童生徒が集まっているのかというぐらいの大人数だった。 支援学校は特に個人情報大事だと思うので、ランサムウェアの購入について、来年度の経営計画等に、また大阪府の方針にも反映してもらえたら、子どもたちも保護者も先生も安心かなと思う。 <p>【第 3 回 令和8年2月4日（水）開催予定】 令和8年度教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校では、決められているものがあり、その中で通級教室などは実態に応じて配慮している。小学校でも重度の児童も入学しているので、参考になっている。 児童生徒の実態に合わせた選定になっていると感じた。保護者はどんな勉強をしているかわからない部分もあるが、教科書が提示されることでイメージを持ちやすいと感じており、今後も継続してほしい。 <p>令和7年度学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路に関する項目で回答率の母数は小学部と高等部とは異なるけど、保護者自身がどこまでイメージを持っているかという点が影響しているのではないかな。 いじめ対応の項目について前年度より肯定的評価が 8.6%増加になっている。次年度もいじめに対する取り組みについて、保護者がわかりやすいように学校から発信してほしい。 <p>令和7年度学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中高 12 年間いる学校はなかなかない。教員交流、有効に活用されている。深まっていければと思っている。 自己評価 継続していく上で、達成した後、計画の中でむずかしい。それをずっとやっていけばいくほど多岐にわたってたくさんになってくる。 防災防犯 今年度のヒヤリハット 25 件。引き続き件数を出していけるように取り組んでほしい。 <p>令和8年度学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学部と高等部に共通する部分 マナー検定、接客・挨拶の徹底。最低限のコミュニケーションは身に付けて卒業していただきたい。 令和7年度の計画案を整理して次年度へ計画していることがわかった。令和8年度もさらに充実するようにお願いしたい。 地域支援整備事業の中核として地域の学校の支援教育力の向上に貢献するというのは、令和7年度にはなかったが、令和8年度に入っているのでありがたい。 SNS、生成 AI によるフェイク等、情報教育も卒業後の生活に必要なと考える。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (太文字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 知的障がい教育の専門性向上	<p>(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症・トラウマの特性に応じた指導支援を含む)</p> <p>ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜支援研究部＞</p> <p>イ 自立活動を推進する ＜カリマネ行動支援PT・自立活動主任＞</p> <p>ウ 効果的な指導方法を検討する ＜担当首席・管理職・高等部＞</p> <p>エ シラバス活用を促進する ＜カリマネ行動支援PT・教務部＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学びを実践へ！ 広がるコミュニケーションの輪 ・コミュニケーション支援のワークショップで手法を学び、校内に広める ・学んだ手続きを効果的に共有し、他の教職員と連携して、共通の実践ができる体制を構築する</p> <p>イ 一人ひとりの良さを伸ばす自立活動！ ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する</p> <p>ウ 学ばせ方改革！ 授業カパワーアップ！ハイパー！ ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する ・授業の初めに、めあてを分かりやすく伝えると共に、めあてに沿った振り返りを行う</p> <p>エ 「シラバス」×「教科書(☆本)」 ＝「魅力ある授業づくりの実現」 ・シラバス・教科書(☆本)の活用を通して魅力ある授業づくりを推進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・学んだ教員の報告会実施 年1回 ・今までのワークショップ受講者全員による周囲への効果的な手続き共有 自クラス担任数以上</p> <p>イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察</p> <p>ウ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・准校長の授業観察時に確認する。 ・研究授業の研究協議でめあてに関する協議を行う。</p> <p>エ ・シラバス・教科書の活用状況確認 年2回以上</p>	<p>ア ・高等部より教員2名ワークショップ済。3月24日報告会実施予定。(○) ・意見交流会を通して、各学年学部への共有の推進を要請した。(○)</p> <p>イ ・年間を通して、自立活動の目標と各教科等の関連についての検討を、各学年で学部研修として実施した。(○) ・個別の指導計画において、自立活動の目標立てと各教科等の関わりについての全校研修を開催した。(○)</p> <p>ウ ・研究授業の研究協議を通じて、活動量の保証や内容について協議を実施した。(○) ・研究協議では、研究授業のめあておよび、授業のねらいについて参観した教員と協議を行った。(○)</p> <p>エ ・シラバスにすぐアクセスし確認できるような環境整備を行った。(○) ・活用状況アンケートを10月に1回のみしか実施できなかった。(△)</p>
	<p>(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる</p> <p>ア コース制での学習の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞</p> <p>イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞</p>	<p>(2)</p> <p>ア 小さなスキルアップの積み重ね ～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分～ ・製品づくりを通してコースごとに必要な働く力を高めるとともに、販売を通して働く喜びや達成感の涵養、コミュニケーション力の体得を図る。</p> <p>イ HOP STEP JOB! ～ここから、始まる～ ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を保障し、主体的な進路決定に必要な知識の獲得を図る。 ・2年時にコースに応じた実習先での体験実習(2回)を継続実施し、生徒の自己理解や主体的な進路決定に繋げる。</p> <p>・1人1人のニーズに応じた進路選択をサポートするために進路先開拓を進めるとともに、福祉事業所・企業・障がい福祉課・ハローワークなど関係機関との連携を強化する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・学校教育の自己診断の保護者評価「学校は、子どもの将来の進路や職業について、発達段階に応じてわかりやすく伝え、必要な学習や体験を行っている。」87%以上[85%]</p> <p>イ ・職場見学・体験を1年生で年3回、2年生で年1回以上</p> <p>・外部講師による授業を年1回以上</p> <p>・2年時にコース別での実習先で体験実習を2回以上</p> <p>・高等部3年生、希望する進路の実現100%</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・2月2日～6日に実施。(○)</p> <p>イ ・職場見学、1年生は2回実施済み。第3回は1・2月実施予定。(○) ・2年生キャリアグループは1回実施済。他のグループは1・2月に実施予定(○) ・2年生体験実習を6～7月に実施済。第2回は11月に実施した。(○) ・現時点(1月19日現在)2名が未決定だが、その内1名は職業訓練校2次募集に出願済。1名は未定だが、居住地の就業・生活支援センターへ引継ぎ済。(○)</p>
	<p>(3) 時代にマッチした教育理論を構築する</p> <p>ア 効果的な指導支援を研究・推進する ＜全校・カリマネ行動支援PT・支援研究部・管理職＞</p>	<p>(3)</p> <p>ア 一人ひとりの可能性を輝かせる ポジティブな学校！ ・望ましい行動に向けた支援について学校規模で研修・実践に取り組む。</p> <p>当たり前じゃない！「当たり前」 ・児童生徒が「当たり前」にできている適正行動に着目して言語化することで、行動の維持向上を図り、消失を防ぐ</p> <p>一人ひとりに合った支援で 大人も子どももみんな笑顔に！ ・外部の専門家を招聘し、夏季休業中の効果的な研修の実施により専門性の向上を図る</p>	<p>(3)</p> <p>ア ・SWPBS(スクールワイドポジティブ行動支援)学校規模研修実施</p> <p>・アンケート等の実施により、各部にフィットした具体的指標を検討して実践する</p> <p>・SWPBS 実践校見学</p> <p>・学期末毎に「適正行動への着目」に関するアンケート 年3回</p> <p>・夏季研修のアンケート結果考察</p>	<p>(3)</p> <p>ア ・PBSモデリング動画、ポスターの作成。デジタルサイネージを活用したモデリング動画の校内共有。むこがわ特別支援学校吉見先生による校内研修の実施。(○) ・PTメンバー各学部内でのアンケートや、校内PBS探しを実施し、PT通信として校内に情報共有した。(○) ・生野支援学校のPBS研修へ参加した。(○) ・毎月の学年会において学年がめざす子ども像の検討、共有を実施した。学期末にアンケートを実施し、課題を考察した。(○) ・夏季休業期間に外部講師を招き人権研修2件(同和問題、LGBTQについて)と教員研</p>

	<p>イ カリキュラム・マネジメントを充実させる ＜カリマネ行動支援PT＞</p> <p>ウ ICTを活用した取組みを推進する ＜DX推進PT・情報部＞</p> <p>エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する ＜教育環境部・高等部・生活指導部＞</p> <p>オ 人権感覚を育む ＜担当首席＞</p> <p>カ いじめの未然防止に努める ＜生活指導部・高等部＞</p> <p>キ 防災・防犯に努める ＜担当首席・生活指導部＞</p>	<p>イ <u>続・続みんなで作る「カリキュラム・マネジメント」～達成の3年目！～</u> ・カリマネにより、学部間、分掌・PTの連携・協力を進め、より良い学校づくりを行う</p> <p>ウ <u>ICT活用力で変わる！教育の新しいカタチ</u> ・全教職員を対象としたICT活用能力向上のための研修を実施し、全体の底上げを図る</p> <p><u>あるあるTV！みるみるネット！</u> ・教室モニター設置率を改善し、いつでもICTを活用した授業展開ができる環境改善を図る <u>足元から広がる無限の可能性！</u> <u>未来を彩る学びのフロア</u></p> <p>・床面プロジェクションマッピング装置を設置し、床面に行動の手がかりを投影し、教育活動の支援を行う</p> <p>エ <u>行きたい！読みたい！ライブラリー！</u> ・児童生徒が読みたい本を積極的に取り入れ、興味関心が広がる読書教育を推進する。 <u>笑顔と声で迎える朝 元気のスイッチON！</u> ・学部を越えて児童生徒会と一緒に朝のあいさつ運動を実施する <u>ねやがわレポリューション！</u> ・50周年の様々な記念事業で高まった機運を継続していく意識の構築を図る</p> <p>オ <u>あなたらしく 私たちらしく</u> ・人権をテーマにした教育を授業で実施する</p> <p>カ <u>みんなで守ろう、みんなの笑顔！</u> ・「いじめ対策委員会」を学期1回開催、いじめに繋がる事案等の確認を行い、未然防止に努める ・いじめ事案が確認されたら即ち委員会を開催し、組織としての対応を検討する ・『学校いじめ基本防止方針』を改訂、教職員・保護者へ効果的に周知する ・「部集会」で各学部生活指導部より、児童生徒に向け、いじめ防止に関する講話の実施</p> <p>キ <u>みんなで助かる防災計画！</u> ・児童生徒は元より、教職員も含め全員で助かる防災計画の確認を行う</p> <p><u>みんなで守る安全な学校、ヒヤリハットが第一歩！</u> ・ヒヤリハット報告を通して教職員の安全意識を向上させ、事故や災害の未然防止を図る ・学期初めにヒヤリハット報告の協力依頼を職朝時に行う ・必要に応じて、ヒヤリハット情報を職朝で共有する</p> <p><u>一人ひとりのチェックで安心</u> <u>みんなの未来！</u> ・マニュアルや校内の実情に応じた訓練、双方を実施する</p>	<p>イ ・研修の実施 年1回以上</p> <p>・分掌、PT間の定期的な情報交換</p> <p>・これらを含むカリマネ通信の発行 学期1回以上</p> <p>ウ ・研修実施後のアンケート結果考察</p> <p>・校内モニター設置率5%増</p> <p>・床面プロジェクションマッピング装置（単焦点プロジェクター）の設置</p> <p>エ ・図書室内の環境整備の継続。</p> <p>・書籍の入れ替え。（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の5%）</p> <p>・あいさつ運動 週1回以上</p> <p>・50周年記念ダンス 学期1回以上</p> <p>・記念ソングのバス降車合図として活用</p> <p>オ ・人権学習 年1回 ・人権推進委員会開催 学期1回</p> <p>カ ・学校教育自己診断の保護者評価 「いじめについて」65%以上[63%]</p> <p>キ ・防災計画の確認・修正の実施</p> <p>・ヒヤリハット報告提出数 R6年度比80%増</p> <p>・防災訓練（必須訓練及び誤報に関する訓練 各1回以上） ・防犯訓練（教員・児童生徒各1回）</p>	<p>修2件（強度行動障害、愛着障害について）を行った。基礎的な知識や多様な考え方に理解が深まり、効果的な指導方法だけでなく、日々の意識等についても知ることができたという感想が見られ、専門性の向上や教職員の意識増進に繋がったと考える。(○)</p> <p>イ ・学年主任対象にカリマネ、自立活動についての研修を実施した。(○) ・日々の業務の中でコミュニケーションや情報共有を図った。(○) ・通信3号まで発行した。(○)</p> <p>ウ ・クラウド型業務支援ツール活用研修を全教職員対象に実施。（「研修の満足度について」肯定的評価95%） 生成AI活用研修を希望者対象に実施（28名が参加。「研修の満足度について」肯定的な意見95%。） 研修内容を実践している学部学年が増えた。(◎)</p> <p>・今年度校内モニターを5台購入し、高等部へ配置し5%増は達成した。すべての教室に配備されるよう今後も取り組む。(○)</p> <p>・予算の都合によりプロジェクションマッピング装置の設置は実現に至らなかった。校内にある既存のプロジェクターを活用した代替案について検討を進めている。(△)</p> <p>エ ・昨年度に続き、シールの色分けや図書の整理、全蔵書リストへの入力を行った。(○) ・寄贈図書の整備を行ったが5%の入れ替えはできていない。(△) ・あいさつ運動は、ほぼ毎日実施できた。(○) ・記念ダンスは、各学期の学部集会で実施できた。(○) ・記念ソングは、降車合図に加えて、13:00と15:00の下校便乗車開始時にも活用、バスホールのみならず非常放送設備のスピーカーから自動で流れるように設定をした。(◎)</p> <p>オ ・各学年学期に1回実施。(○) ・4月と12月に開催し、三学期も開催予定である。(○)</p> <p>カ ・教職員（職員会議）、保護者（eメッセージ配信）に内容を周知。1学期の部集会で生徒に講話を実施。対策委員会は各学期1回定期開催した。高等部保護者評価は64.4%であった。全保護者評価は62%で、前年度より8.6ポイント増加している。(○)</p> <p>キ ・今年度より新たに児童生徒一人一つ防災袋を購入し、使用期限（6年）が来るまで校内保管。各防災対策班でのシミュレーションを実施し、災害発生時の対応の見直しを行ったことで、従来計画の確認・修正を上回る成果となった。(◎) ・11月1日現在、今年度のヒヤリハット報告数は25件。昨年度は2件だったので、80%増を大きく上回った。(◎)ヒヤリハット報告を提出後の職朝で全校共有し、注意喚起を行っている。</p> <p>・防災、防犯ともに全ての訓練が実施できた。(○)</p>
--	--	---	---	---

	<p>(4) 次世代教職員を育成する ア 人権感覚を高める <高等部・管理職></p> <p>イ 他学部の取組みを知る機会を作る <担当首席></p> <p>ウ アレルギー対応の強化を図る <健康教育部></p>	<p>(4)</p> <p>ア 子どもの人権尊重！ 広げよう「前向き」「認める」言葉かけ！ ・子ども一人ひとりの人格を尊重し、ポジティブな言葉かけで行動を促す</p> <p>イ 学校ぜ～んぶ、笑顔でつながろう！ 寝屋川ファミリー（教員版） ・教職員の学部間交流を計画・実施する</p> <p>ウ 誰でもわかる！給食と食物アレルギー ・年度当初のマニュアル説明、食物アレルギーに関する研修の実施、しおり・マニュアルの各クラス配備により、絶対に食物アレルギー事故を起こさない体制の構築を行う</p>	<p>(4)</p> <p>ア ・准校長の授業観察、部主事等からの聞き取りで確認 年1回以上</p> <p>イ ・十分な準備のもと、他学部のミドルリーダー等が丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う 年1回</p> <p>ウ ・食物アレルギー研修実施 年1回以上</p> <p>・マニュアル活用状況アンケート実施</p>	<p>(4)</p> <p>ア ・12～1月を中心に管理職による授業観察を実施。(○) 教職員の人権意識は高く推移しているが、ポジティブな言葉かけが自然にできるようになるための意識づけや児童生徒の実態に依拠しているかについての課題は多い。</p> <p>イ ・12月に実施した。2月にも実施予定。(○)</p> <p>ウ ・食物アレルギー研修(エピペンの使用方法、実践も含む) 2学期始業式前に実施済。(○)</p> <p>・1学期末、2学期末、給食アンケート内の項目にて実施→アレルギーマニュアルと給食のしおりの活用状況 1学期末：76.5% 2学期末：73.6% (○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">2 保護者・地域・関係機関との連携</p>	<p>(1) 保護者との連携を深める ア 保護者が進路情報を取得する機会を充実させる。 <進路指導・高等部></p> <p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る <保健室></p> <p>ウ 自主単独通学により社会性を育む <生活指導部></p> <p>(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア 学校間交流を実施する <高等部></p> <p>イ ボランティア募集活動の推進する <担当首席></p> <p>(3) わかりやすい最新の情報発信を行う ア デジタル化を推進する <担当首席></p> <p>イ 興味がわく情報発信を行う <担当首席></p>	<p>(1)</p> <p>ア 進路、もっと知りたいねん！ ～主体的に切り拓く進路～ ・本校の進路の流れや取り組みについて動画配信し、保護者が進路について知り、進路選択しやすくなるようにする。 ・2回目となる福祉事業所合同説明会をより充実したものにする。</p> <p>イ 相談室へいらっしやい！ ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する ・できるだけ担任も同席し話を共有する</p> <p>ウ はじめよう自主単を！ 身につけ伸ばそう社会性！ ・保護者と連携し、自主単独通学生徒を増やし活動を通して社会自立に向けた力を育む</p> <p>(2)</p> <p>ア こんにちは！寝屋川支援学校です ・各学部において、学校間交流を行う</p> <p>イ・ 地域の力を結集して、子どもたちの未来を育もう！ ・スクールボランティア数を増やして、子どもたちへの教育環境を充実させる ・ボランティア募集のチラシを学校HPに掲示すると共に、近隣大学へ配付を実施</p> <p>(3)</p> <p>ア デジタルの窓でつながる みんなの学びと笑顔！ ・児童生徒の取組みを、来校した保護者にわかりやすく情報発信するためにサイネージを設置する</p> <p>イ 「みんなの学校ブログ」 ～学校のワクワクをブログで発信！～ ・児童生徒が主体となって、寝屋川支援学校の魅力を学校ブログで発信する</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・動画の作成、配信 年1本以上</p> <p>・事業所、保護者の来場アンケートでの満足度 80%以上</p> <p>イ ・学期2回以上の実施 ・1回につき3件以上の相談</p> <p>ウ ・自主単独通学生徒数 R6年度比 40%増</p> <p>(2)</p> <p>ア ・学校間交流実施 年1回以上</p> <p>イ ・スクールボランティア登録者数 R6年度比 80%増</p> <p>(3)</p> <p>ア ・学校教育自己診断の保護者評価 「教育情報の提供」85%以上[81%]</p> <p>イ ・児童生徒からのブログ投稿 年間50件以上</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・動画の撮影、配信は2月実施予定。(○)</p> <p>・福祉事業所合同説明会を7月22日に実施。参加者93名 内訳 保護者81名 相談支援5名 近隣支援学校教員7名 参加事業所・訓練校70ヶ所 来場所アンケート結果 事業所70ヶ所(回答53ヶ所) 満足・・・77.4% 普通・・・92.5% 保護者 満足・・・95.8% 普通・・・100% 次年度も開催予定。(○)</p> <p>イ ・1学期3回、2学期4回、3学期2回実施予定。(◎)</p> <p>・小児発達については、1回につき3件以上の相談希望あり。精神については、相談希望者が少ない(○)</p> <p>ウ ・今年度開始者4人、前年度比21%増。(△) 自転車による通学も導入した。自主単独通学生徒を中心にあいさつ運動や清掃活動にも取り組んでいる。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・学校間交流を計画的に実施。 1年：枚方なぎさ高校(12/18) 2年：西寝屋川高校(12/17) 3年：野崎高校(12/16) 2年(キャリアコース) 北河内支援学校職業コース 作業交流会(12/24)。(○)</p> <p>イ ・11月5日現在、ボランティア登録数5名。前年度比80%を大きく上回った。(◎) 近隣12大学にチラシの配付を依頼。1大学はチラシを持参し、講義の最後に説明の時間をいただき、募集をかけた。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・学校教育自己診断「教育情報の提供」89% 保護者評価(○) 校内にサイネージを設置し、児童生徒が投稿した学校ブログや、PBSの一環で生徒が制作した動画を放映し全校で共有。また保護者来校時にも放映し、学校での取組みを紹介する機会となった。</p> <p>イ ・今年度67件の投稿があり、ブログで発信を行った。(◎)</p>

3 働き方改革	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる <管理職></p> <p>イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う <管理職></p>	<p>(1) ア 1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事! ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスをさらに向上させる</p> <p>イ 何を言っても大丈夫! 困ったときはお互い様 ・教職員同士が気持ちよく業務を行えるよう、なんでも相談できる職員室の雰囲気づくりを行う</p>	<p>(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクが全国平均より下回る〔100〕</p> <p>イ ・学校教育自己診断教職員評価「教職員での話し合い」82%〔79%〕</p>	<p>ア ・ストレスチェックの総合健康リスクが全国平均より下回った(98)(○)</p> <p>イ 学校教育自己診断教職員評価「教職員での話し合い」90.1%(○)</p>
	<p>(2) 教職員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を促進する <教務部></p> <p>イ グラウンドを使いやすくする <健康教育部></p>	<p>(2) ア 知識の循環を進めよう! 教材バンクで学びの連鎖 ・共有できる教材を増やし、効果的な教材研究の実施を推進する</p> <p>イ 整備で変わる! みんなのグラウンド ・使用後や降雨後に点検・簡易整備を行うことで、使用したい時に使える環境を整備する</p>	<p>(2) ア ・教材バンクに格納された情報教材数 昨年度比 120%</p> <p>イ ・学期に1回のにがりまき・溝清掃実施</p> <p>・グラウンド使用後の簡易整備割合確認</p>	<p>ア ・収集方法をフォーム投稿に変更。各自1件以上投稿することを全校周知。教材約150件収集をめざす。(一)</p> <p>イ ・5月(運動会練習前)石拾い、土入れ、ならしを実施。(○) 9月30日(体力作り週間前)草抜き、土入れ、ならし実施 1月8日(体力作り週間前)土入れ、ならし、にがりまきを実施。春休みにも整備実施予定。(○) 溝掃除は実施できていない。草抜き同様、事務や技能員と連携して行う必要がある。</p> <p>・グラウンド使用後、簡易整備は使用者が行っている。特に問題なく使用できているため、割合確認は行っていない。(○)</p>
	<p>ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する <学年主任></p> <p>エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す <教育環境部 健康教育部></p>	<p>ウ 分掌長さんそれやりますよ! アップデート ・業務の平準化のため、アンケートを実施して分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る</p> <p>エ 管理上手で無駄なく長いお付き合い! ・備品、消耗品、教材の管理を行う チェックでつなぐ安心安全! ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える 学校キレイ大作戦! 整理整頓で清潔な教室を! ・50周年記念事業で整備したHR教室・特別教室、廊下の掃除道具の状態を維持する 児童生徒・教員・環境にも優しいプール! ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗浄促進剤を活用する</p>	<p>ウ ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上</p> <p>エ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施</p> <p>・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施</p> <p>・年度初め、学期末に過不足の調整 年4回</p> <p>・掃除の時間及び参加人数の確認</p>	<p>ウ ・仕事の偏りについては、例年通りの仕事量であるため解決していない。(△)</p> <p>エ ・教職員ロッカーと靴箱は必要に応じて随時、教材倉庫は学期末に整理整頓を行った。(○) ・毎月末の安全点検実施と、異常個所の補修依頼を行った。(○)</p> <p>・年度初め、学期末に清掃用具と児童用机・椅子の物品調整を行った。(○)</p> <p>・プール洗浄促進剤の使用により、掃除時間の短縮につながった。役割分担を行い、短時間で計画的に実施できた。時間は約1時間、参加人数は約40名。掃除までに健康教育部で水抜き、簡易掃除、準備を行った。(○)</p>
<p>オ 写真撮影・販売等の業務を削減する <管理職></p> <p>カ ダイアルインを導入し、活用を進める <管理職></p> <p>キ ICTを活用して業務の効率化を図る <DX推進PT></p>	<p>オ プロにお任せ! 思い出満載! ・日常の風景や泊行事を含む行事の撮影及び、卒業アルバムの写真選定から作成までを業者に委託し、教員の業務を削減する</p> <p>カ 内線は過去! ダイアルインで未来! ・ダイアルインを導入し、内線の負担を軽減する</p> <p>キ ICT活用力で変わる! 業務の新しいカタチ ・全教職員を対象としたICT活用能力向上のための研修を実施し、業務の効率化を図る</p>	<p>オ ・写真販売システム、アルバム作成業者の選定、提携</p> <p>カ ・ダイアルインシステムの導入 活用に関する状況を面談にて確認</p> <p>キ ・研修実施後のアンケート結果考察</p>	<p>オ ・写真撮影・販売業者を選定し、各行事・授業等を撮影、販売の定着ができた。(○)</p> <p>カ ・ダイアルインシステムにより、内線の負担が大幅に削減した。(○)</p> <p>キ ・クラウド型業務支援ツール活用研修を全教職員対象に実施。「研修の満足度について」肯定的評価95% 生成AI活用研修を希望者対象に実施(28名が参加。「研修の満足度について」肯定的な意見95%。)授業案立案に生成AIを活用できるよう、プロンプト生成のフォームを作成し、全校で共有を行った。(○)</p>	
<p>ク 会議の円滑化・充実を図る <全校></p>	<p>ク 「こうあるべきだ!」はやめましょう! 柔軟に問題解決! ・提案に課題を述べるときは、併せて代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 これ、なんのためにやっているの? 「例年通り」はやめましょう!</p> <p>・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。</p>	<p>ク ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上</p> <p>・学校教育自己診断教職員評価「行事の工夫・改善」80%〔76%〕</p>	<p>ク ・首席、部主事に日々確認したところ、案件に対して持ち時間を設定することや、資料を事前に確認することである程度の整理はできているが、休憩時間に会議を入れる必要が出てくるなど、課題が多い。(△)</p> <p>・学校教育自己診断教職員評価「行事の工夫・改善」89.4%(○)</p>	
<p>(3) 業務推進体制を整理する ア 校務分掌を整理する <管理職></p>	<p>(3) ア 分掌から飛び出し続けるPT! ・分掌とPTの担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する</p>	<p>(3) ア ・首席・分掌長等の面談時に確認</p>	<p>(3) ア ・具体的な遂行内容が確定していないため、PTの機能がフルに発揮できなかった。(△)</p>	

	<p>イ 情報共有体制の強化を図る ＜全校＞</p> <p>ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る ＜情報部＞</p>	<p>イ 飛び越えない「情報共有」! ・業務に関する情報に洩れを生じさせないため、学級→学年主任→学部主事、各担当→係主任→分掌長、担当首席→教頭→校長・准校長と、順序だてた共有を図る</p> <p>ウ 進むシステム 減らそう業務 チャンスの時間! ・導入された新校務環境を活用し、個人や組織の生産性の向上を図るため、情報発信や業務の提案を行う</p>	<p>イ ・首席・部主事等の面談時に確認</p> <p>ウ ・職員室以外でクラウド型グループウェアを利用したことがある 100%</p> <p>・新環境を利用した業務改善ニュースを年6回発行する</p>	<p>イ ・順序だてた情報共有を基本とおいていたが、年度当初に管理職が欠員となったことや、イレギュラーな事柄が多かったことで、順序だてた情報共有よりも迅速な対応を優先した。(△)</p> <p>ウ ・会議や授業などの校務のため全教員が教職員端末を職員室から持ち出し、MS365を利用している。(○)</p> <p>・情報部通信「デジサボ」を年6回発行し、新しいアプリの紹介や業務時短のテクニックなどの情報発信を行った。(○)</p>
<p>4 地域支援</p>	<p>(1)地域との連携強化を図る</p> <p>ア 校内の支援コーディネーター育成 ＜支援部、LS＞</p> <p>イ 校外の支援コーディネーター育成 ＜支援部、LS＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア 未来をつなぐ次世代のLS育成! ・後進育成として、年に5回・5人以上、LS以外の教員が巡回や研修講師に同行する</p> <p>イ 学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に! ・担当市を中心に教育委員会と一緒に教員研修や施設見学などを実施する。年4回以上</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・同行回数 年5回5人以上</p> <p>イ ・研修及び施設見学 年4回以上</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・同行回数5回5名実施した。(○)</p> <p>イ ・施設見学1回実施した。研修 学校研修8回実施した。 市教委企画10回実施した。(◎)</p>